

## ユヌス・ソーシャル・ビジネスで起業する 若者のためのYYコンテスト

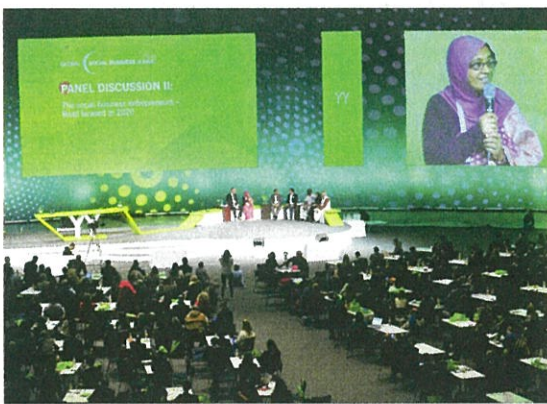
YY Social Business Design Contest

ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏が提唱するユヌス・ソーシャル・ビジネスを日本から世界に広げていくために活動している私にとって、YYコンテストの準備にあたっては春から夏にかけてのこの時期はとりわけ忙しいシーズンです。

YYコンテストとは「YY Social Business Design Contest」の略。YYはYunus & Youth、ユヌス氏と若者を意味しています。チーム・ユヌスの一員であり、ユヌス氏の右腕である起業家ハンス・ライツ氏とのやりとりがきつかけで、2012年から九州大学のユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターが主催し、毎年開催しています。

このコンテストは若者による自立的・持続的に社会的課題を解決するソーシャル・ビジネスの創出を目的としています。ですから、重視しているのは社会問題を解決する事業として、あるいは会社として成り立つかどうか。表彰して終わ

りではなく、コンテスト終了後も継続的なコンサルティングや事業立ち上げのための出資や投資を得られるサポート体制の構築など、ビジネスプランの事業化に向けたフォローアップを行い、会社設立まで真剣に関わります。



毎年、世界50カ国以上から1000名を超える参加者が集う「Global Social Business Summit」

前回優勝したチームは、海外観光客と地元住民との交流によって地方創生を図ることを目的とした「Tabimart」という旅のプラットフォームについてのビジネスプランを発表し、今年の春にツアーエージェント会社を設立しました。また、2013年に優勝したチームは、絶滅危惧種の魚ヒナモロコを守り、環境・人に配慮するエコフレンドリーな洗剤「ヒナモロコ」のビジネスプランを発表しました。このチームの場合は起業ではなく、既存のサンキユウ株式会社という会社に、ソーシャル・ビジネスの部門をつけ加えました。サンキユウ株式会社は同年にユヌス・ソーシャル・ビジネス・カンパニーとして、ユヌス氏より認定を受けています。

このコンテストが特徴的なのは、最終予選まで約4カ月をかけて、起業家や経営者など講師を招いてのワークショップを複数回開催し、また、それぞれの参加チームにメンター（仕事上または人生の指導者、助言者）が付き、事業計画や収支

YYコンテスト[公式サイト]  
<http://yycontest.org/>

計画などのビジネスプランを実現可能な計画にブラッシュアップしていくなど、多くの企業や経営者、社会人の方々にご参加ご協力をいただいている点です。代表的なのはソフトバンクで、汐留のオフィスビルを貸していただいたり、講師やメンターとしても複数参加をいただいています。

メンターを務める側にとっても、若者ならではの視点や考え方、ソーシャル・ビジネスに対する意欲など、新しい視点や気づきがあり刺激されることで、ほとんどの方がリーダーとして参加されています。もし本コラムをお読みになつて、若手社員の育成や社会貢献という点でご興味がありましたら、ぜひ見学にお願いいたします。

さて、予選会とユヌス氏が審査員長を務める本選で優勝したチームは、ユヌス氏が共同設立者であるグラミン・クリエイティブ・ラボ主催の国際的ソーシャル・ビジネス会議「Global Social Business Summit」に招待されます。同サミットには毎年、世界50カ国以上から、開催国首脳、政治家、経済界、著名人、国際機関、皇室関係者など1000名を超える参加者が集い、各国で実施されているソーシャル・ビジネスの報告、最先端の議論や意見交換などを行います。コンテストの優勝チームはそこで自分たちのビジネスプランを発表します。

あるとき、発表の翌日にホテルで朝食を食べっているとアラブの実業家が発表したメンバーに「昨日のビジネスプランを本気で事業化するつもりがあるか？ だったらうちの国で一緒にやらないか」と声を掛けてきたこともありました。サ



世界各国の参加者に自分たちのビジネスプランを発表し、ユヌス氏と記念撮影する2014年優勝の立命館大学チーム

ミットの参加者たちは皆、ユヌス・ソーシャル・ビジネスを広げたい、応援していきたいという同じ思いを抱き、同じベクトルを向いています。だからこそ、そうしたつながりや国際的な展開も夢ではないのです。

YYコンテストは第1回を福岡で開催し、今年で6回目を迎えますが、毎年のサミットでの発表を通じて広く知られるようになり、世界へと広がってきています。今後はタイのアジア工科大学院をはじめ、台湾、マレーシア、オーストラリアなどの大学と連携して展開していきたいと考えています。それぞれの優勝チームが集まり、アジア大会を開催するというアイデアもあります。これもまた、世界各国のそれぞれの大学にユヌス・ソーシャル・ビジネスをやらうという仲間たちがいるからこそできることです。

ビジネスプランをプランのまま終わらせることなく、実現することこそがソーシャル・ビジネスをつくる喜びです。情熱と創造性にあふれる若い世代と、それを支援する企業や経営者、ビジネスキャリア豊富なメンターとの出会いから、多くのユヌス・ソーシャル・ビジネスの成功事例が生まれることを願って、私も東奔西走の日々が続きます。

## 岡田昌治

九州大学 特任教授／  
ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター  
エグゼクティブ・ディレクター

1953年、福岡県生まれ。東京大学法学部卒業後、79年電電公社に入社。NTTグループ、特に米国子会社のNTTアメリカ(NY)、インターネット・ビジネスのNTT-Xなどにおいて国際法務を中心に幅広くNTTの国際ビジネスを担当。ワシントン大学(シアトル)経営学修士号(85年)・ニューヨーク州弁護士資格(93年)取得。2001年NTT退職後、02年より九州大学法科大学院にて「契約実務」「インターネットと法」「国際企業法務」等の講座を担当、知的財産本部において産学官連携の推進に携わる。08年よりノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス博士とソーシャル・ビジネス推進のための国内外のプロジェクトを担当。もっともユヌス氏に近い日本人。

